

―戦国の勇将、

茶人から薩摩茶入のプロデューサーへ―

島津義弘の 茶の湯と 茶陶

茶論講座

茶の湯事始3展 関連行事

5/
17 土

14:00～15:30



参考：薩摩茶入（華鶴大塚美術館蔵）

講師

鹿児島県歴史・美術センター黎明館

主任学芸専門員 深港 恭子 氏

西南学院大学卒業後、鹿児島県歴史資料センター黎明館資料調査編集員、薩摩伝承館学芸員を経て、黎明館主任学芸専門員美術・工芸(薩摩焼)担当となり現在に至る。2018年、明治維新150周年記念黎明館企画特別展「華麗なる薩摩焼―万国博覧会の時代のきらめき―」を担当。日本陶磁史を専門とし、薩摩焼ならびに明治期における輸出陶磁器を研究。関連の論文も多数執筆している。

定員 40名 ※要申込/聴講無料

会場 タカヤ株式会社 本店3階

※会場は、美術館から徒歩約3分です。

概要

島津義弘は朝鮮出兵で明・朝鮮連合軍に「石曼子（シマツ）」と恐れられ、関ヶ原合戦の敵中突破で知られる勇将である一方、千利休の弟子となった茶人でもあります。

関ヶ原後は朝鮮陶工に窯を築かせ、古田織部の指導を受けながら「薩摩肩衝」の名で知られる茶入を生み出し、茶の湯外交を繰り上げました。

本講座では戦国の勇将から茶人、そして茶陶のプロデューサーへと活躍の場を広げる島津義弘を通じて、茶の湯と薩摩の歴史を振り返ります。